

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190200204		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター元町(1階ユニット ひまわり)		
所在地	札幌市東区北25条東20丁目5-15		
自己評価作成日	2021年 1月12日	評価結果市町村受理日	令和3年3月1日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人、ご家族の意向を大切に家庭的な環境の下で一人ひとりに寄り添った支援が行えるよう努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JivogyoCd=0190200204-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JivogyoCd=0190200204-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和3年2月9日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は最寄りのバス停や地下鉄駅から徒歩圏内にあり、周辺は、医療機関、大型スーパー、ドラッグストア、郵便局等がある住宅街に位置している。法人の理念や心得に加え、事業所理念「みんなが集まる笑顔が絶えない家」を策定している。高齢化や重度化により、利用者全員が笑顔になれる場面は少ないが、職員は、管理者や各ユニットリーダーの助言を受けながら、利用者が安心して暮らせる環境作りに努めている。外出意欲の低下もあり、事業所が利用者にとって居心地の良い場所になっている。コロナ禍により、ガラス越しの面会など外部との交流は自粛されているが、百寿祝いには、家族と一緒に祝賀会を行っている。イベントでは、食事会やゲームなどを楽しみ、時にはホットプレートでたこ焼き、ホットケーキ、焼きそば等を一緒に作り、楽しみ事に繋げている。利用者や家族の意向を受けとめ、終末期支援に取り組んでおり、家族から感謝の言葉が寄せられている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念、「みんなが集まる笑顔が絶えない家」を目標に一人ひとりに寄り添った支援を実践している。	法人理念を基本とし、さらに事業所理念を掲げ、事業所内に掲示して意識付けを図っている。高齢化や介護度の高さもあり、利用者全員が笑顔になれる場面は少ないが、職員はでき得る支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員不足が続き、積極的に地域に向くことは出来ていない。近隣との関係も希薄。	コロナ禍により地域交流は控えているが、回覧板で地域の情報は得ている。地元住民からの介護相談には快く応じており、入居に繋がった事例がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や問い合わせの際には事業所で実践している認知症ケアについて伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近況やイベント報告などを行い、参加者と意見交換をしている。頂いたご意見やご指摘は今後のサービス向上に活かせるよう努めている。ただ、最近ではコロナウイルスの影響で書面会議のみとなっている。	例年、会議は地域関係者、家族、地域包括支援センター職員の参加の下、年6回開催しているが、現在は書面会議とし、職員のみで行っている。事業所の現状や取り組み状況を報告し、参加者から意見や提案を聞き取っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市や東区のグループホーム連絡会議へ出席している。	市や区の管理者会議等に参加をし、情報を得ていたが、現在はコロナ禍により中断している。報告書や空き情報等は、郵便やメール、電話、FAX等でやり取りをし、情報を共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修・勉強会の他、月1回の身体拘束排除委員会を実施している。事例検討なども行い、普段から行動制限しない支援について話し合っている。	月1回の職員会議の中で、指針に沿って適正化委員会と研修会を開催している。時には、研修会後にチェックシートで理解度を確認している。管理者やユニットリーダーは適宜注意喚起し、正しい理解に導いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修計画に取り入れ、虐待防止についての勉強会を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理解している職員は少ない。研修で勉強会を行う機会もなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約書と重要事項説明書の読み合わせを行い、不安や疑問が残らないように細かく説明を行っている。十分な納得を得てから契約を締結している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、各ユニット入り口に苦情窓口の掲載をしている。コロナウイルスの影響で家族の面会が無く、直接意見を聞く機会が少なくなっているが、電話で話す際などには積極的に意見を聞くようにしている。	家族には、3ヶ月毎に個別の写真を掲載したお便りや、来訪時、電話等で利用者の日常の様子を伝え、情報を共有している。家族から出された意見は、できるだけ応えるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のホーム内会議で運営状況などを報告している。その際に意見や提案を聞いている。	職員会議は、運営に関する報告や利用者の状況確認を行い、運営の質確保や業務の改善等に向けて意見交換を行っている。札幌支店の課長とは電話で事業所の全体像を報告し、課題に対しては指示を仰いでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	非常勤職員にはキャリアアップ制度の機会を設けている。常勤職員には人事考課による評価を行っている。その他に適宜個別面談を実施し職員の意見を聞いている。それらを踏まえて職場環境や労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の研修でスキルアップを図っている。管理者やユニットリーダーは各職員の力量を見定め、適宜指導を行い成長を促している。外部の研修は行っていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会は少ないが、業務支援で他事業所へ出向く機会があった。その際に他事業所の職員と意見交換などが行えた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人、ご家族から聞き取りを行っている。その情報を基にその人にとって必要な支援は何かを検討し、入居後も本人が安心して生活できるようなサービスを提供している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの話を大切な情報源と捉え、初期アセスメントで困りごと、不安、要望などの聞き取りをしている。入居前からご家族とは密に連絡を取り合い、関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のカンファレンスで本人、ご家族の要望を含め、その人にとって「その時」まず必要としている支援は何かを検討している。それをサービス内容に位置づけて支援にあたっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者同士で良好な関係が構築できるように職員は橋渡しの役割を行っている。又、暮らしの中で出来ること、出来ないことを見極め、お手伝いなどを通してその人にとっての役割を見出している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはホームでの生活や日々の様子を伝え、情報を共有してもらっている。その際にご家族の意見や要望、提案を聞きだして共にささえていけるように関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員対応でその人にとっての馴染みの場所へ出掛けることは出来ていない為、ご家族に協力して頂いている。	自粛により、面会は窓越しから利用者の様子を確認する程度だが、今後はリモート面会も視野に入れている。利用者から馴染みの人や場所に対しての要望は聞かれないが、出されたときはできる範囲で応じる態勢にある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置を考慮し利用者同士が良好な関係を築けるよう努めている。職員は会話の橋渡しをするなどコミュニケーションの手助けを行っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に困りごとや相談事があれば話を伺い、アドバイスやフォローを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を聞き、意向の把握に努めている。困難な場合には本人本位に検討し、その人にとっての安心な生活は何かを考えている。	利用者からの要望は殆ど聞かれないが、積み重ねて来たアセスメントや介護記録、申し送りノート、家族からの情報を踏まえ、職員間で利用者の満足感に繋げる話し合いが行われている。状態変化時はケアマネに相談し、ケアプランに反映することもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報や初期アセスメントで本人のこれまでの暮らしを把握するよう努めている。入居後も可能な限り馴染みの生活が継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の一日の過ごし方や行動、心身状態、残存機能の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングの情報、本人やご家族の意見・要望などを多角的に情報収集しカンファレンスを開催している。そこから出た様々な意見やアイデアを反映し介護計画を作成している。	ケアプラン策定時は、職員にモニタリングシートを配り得られた意見や提案に加え、アセスメントシート、医療関係者の所見を踏まえ、担当者会議で利用者や家族の望む支援目標を協議している。介護記録でケアプランの実践が確認できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援の中での気づきや実践した結果を個人記録に記入している。職員はその情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況、その時々にも生まれるニーズがあった場合でも柔軟に対応している。日々の生活の中で今、必要な支援は何かを常に検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティアなどの協力は得られている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医療機関の説明を行っている。本人、ご家族の希望も取り入れて医療に繋げている。定期往診では医療相談を行い健康管理に努めている。	24時間連携の医療機関から月2回の往診があり、現在、利用者全員が診療を受けている。さらに週1回の訪問看護により、急変時や重篤時にも対応可能になっている。希望する医療機関や専門医の受診は、家族対応としている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護で健康管理と相談、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には病院関係者との連絡をこまめに行い、現状把握に努めている。情報を共有し早期退院に向けて連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で本人、ご家族と話し合っている。その際に事業所で出来ることを説明し、方針を共有している。重度化や終末期の際には医療との連携を図っている。	入居時に重篤時の対応指針を説明し、同意を得ており、さらに看取り時の意向を傾聴している。状態悪化時は、主治医から家族に今後の病状説明があり、意思確認を得てターミナルケアの開始としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	資料を使用した研修は行っている。実践を想定した訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防避難訓練を実施している。実際の有事の際には近隣住民にも救助の協力を仰いでいる。	日中・夜間想定自主訓練を行っている。緊急通報機器には民生委員の登録、近隣住民に協力の要請、避難場所や避難所の確認、災害備蓄品を用意して非常時に備えている。	改訂版のハザードマップで周辺の危険度のチェック、地域住民との協力体制の再確認、あらゆる災害や入浴時などケア場面の対応、避難場所等の実践的訓練への取り組みに期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し自尊心、羞恥心に配慮した声掛け、対応を心掛けている。	職員は、マナー研修での学びをケアに生かしている。排泄時はドアの外での見守り、入浴時は同性介助の要望を受け入れている。適切な言葉遣いや負担をかけない介助になるよう、職員間で注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自主性を重視している。思いや希望を伝えるのが難しい利用所には二者択一にするなどの工夫をし、出来る限り自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れがある為、全ての希望に沿うことは難しいが、出来る限り希望を聞き入れた支援をしている。意思表示が難しい利用者には本人本位で考え、快と感じて過ごして頂けるような支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を取り入れた支援を行っている。訪問理容で散髪する際も本人の意向やご家族の意向を取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みを把握しメニューに取り入れているが、三食中、一食は配食サービスを利用している為、決まったメニューになってしまっている。	夕食のみ業者に依頼しているが、あとは利用者の好む献立をユニット毎に作成している。介護度の高さもあり、職員は見守りに徹しているが、イベント時は、おやつ(たこ焼き、焼きそば、ホットケーキ等)と一緒に作ったり、時には出前寿司を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し個々の摂取量を把握している。嚥下状態を考慮した形態で食事を提供し、必要に応じて食事介助も行っている。栄養状態については医師と相談したうえで、経口栄養剤などを併用する場合もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは行っていない。週1回(コロナウイルスの影響で現在は月1回)の訪問歯科から指導を受け、適切な口腔ケアが実践できるように努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄間隔、残存機能を把握し出来る限りトイレでの排泄が行えるように支援している。	排泄リズムを把握しており、ベッド上での交換もあるが、状況により複数介助を行いトイレでの排泄支援に取り組んでいる。衛生用品も使い分け、失敗や不快感の軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便状況を把握している。必要に応じて乳製品の摂取や適度な運動を促し、出来る限り自然排便に繋がるよう努めている。便秘傾向の利用者は医師に相談し下剤などで排便コントロールをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴表に沿って順番に入浴して頂いている為、利用者が希望する時間や曜日で対応するのは難しい状況。入浴剤を使用し温泉気分を味わってもらうなど入浴が楽しめるように配慮している。	浴室内は暖房を完備し、湯船には色と香りを楽しめるよう入浴剤を入れている。長風呂や同性介助等の要望に応じ、湯は1回毎に張り替え、利用者からは「気持ちが良いですねえ」の言葉が聞かれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体力を考慮して、昼寝などで休息を促している。安眠できるよう室温の調整、環境整備などを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	疾病の理解と共に薬の目的や副作用などの把握に努めている。事故が起こらないように決められたルールに基づき与薬している。服薬による体調変化があればすぐに医師へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の役割や楽しみごとを見出し提案している。暖かい季節は散歩などで気分転換が図れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響で外出する機会自体が減っている。又、職員不足で本人の希望する場所へ行くことは難しい為、ご家族に協力を仰いでいる。	高齢化もあり、外出への呼び掛けにも「ここに居たい」との声が多く、コロナ禍のこともあり窓を開け放して日光浴程度にとどまっている。自肅前は、家族の支援で外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が金銭を管理することはないが、希望があれば買い物へ同行する支援を行っている。ただ、コロナウイルスの影響で最近では買い物へ行けていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りをする機会は殆どない。希望があれば電話の取次ぎ対応を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部には季節を感じられる飾り付けを施している。適宜、室温や室内の明かりを調整し、利用者が快適に過ごせるよう配慮している。	和室もある居間や廊下には、季節の飾り物や利用者の作品である習字、塗り絵、天井からの吊し飾り等が彩りを添えている。利用者は椅子やソファでテレビを観賞するなど寛いでいる。温湿度や清掃、採光等に配慮がある生活空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が楽しく過ごせるように席の配置などを考慮している。居間で独りになるのは難しいが、希望があれば和室で独りで休むことは可能。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などは本人の好みになるよう配置している。馴染みの物や使い慣れた物を積極的に取り入れ、居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	居室には、物入れや温湿度計が備わっている。ベッドやタンス、テレビ、趣味の物等を持ち込み、自分の部屋として落ち着き感のある配置を家族と相談しながら行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は住み慣れた場所の生活空間に近い環境を意識している。又、トイレや居室にネームを付け、認知症高齢者が認識しやすいように工夫している。		